

シリーズ3 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

26 ムラサキセンダイハギ

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ムラサキセンダイハギは、北アメリカ原産の寒さと暑さに強い宿根草です。日当たりが良く乾燥した所を好みます。5月下旬に、青紫色の小花を茎に沿って互い違いに咲かせます(写真1)。下から順に咲き始める花は、次の日にはしぼんでしまう一日花です。てっぺんのつぼみが色づくまで7日程度で、開花期間が短い宿根草です。草丈は120cm位です。マメ科のため、ほとんど肥料がなくても育ちます。肥料をあげすぎると逆に暴れてしまいます。

ムラサキセンダイハギは、5月初旬に土を盛り上げてアスパラガスのような新芽を出します。茎は、あっという間に伸びます。昨日は無かったのに翌朝には、もうずっと前からここにいましたよ、というような顔をしています。茎は新芽が出てから10日後には50cm位になり、つぼみらしきものが現れます。この頃になると茎は身もだえするように、くねくね曲がってきます。そのまた3日後には、縦にびっしりと並んだつぼみを持った花茎は、天に向かって伸び始めます。それから5日もたつと90cm位になり、つぼみは薄紫色に染まります。つぼみは下から順番の一つずつ咲き進みます。不思議な事に、茎は花が咲き始めるとシャキッと背筋を伸ばしてきます。一番上の花が咲く頃には、最初に咲いた花は1cm位のさやえんどうに変わっています。これが1日ごとに風船のように、ぷっくりとふくらみ、寸たらずのスナッフエンドウのようなおいしそうな姿になりますが、7月中旬頃になると鈍く光る漆黒に変わります(写真2)。これもまた、花壇のアクセントになります。

ムラサキセンダイハギの葉は、アヒルの足跡のように3枚一組になって付いています。雨にぬれると雨粒が葉の上で丸くなってダイヤモンドのように輝きます。光が透けて見える抹茶色の葉は見ているだけでなごみますし、10月下旬頃まで他の宿根草を引き立ててくれます。寒さにあたると、全体的に焦げたように真っ黒になります。急に気温が下がった朝は、花壇の中でドキッとするような姿に変わっています。

ムラサキセンダイハギの茎は噴水状に広がり、年ごとに大株になります。そのため、広い花壇の後ろの方に一株植えることをお勧めします。一生その場所で良いと思う所を探してください。なぜなら一度植えると、ちょっとやそっとでは動かせないぐらい移植が大変になるからです。花が終わってから、お隣の植物に迷惑をかける茎は、根元から何本か間引いてあげると良いようです。



写真1 ムラサキセンダイハギの花 5月下旬



写真2 ムラサキセンダイハギの黒く色づいた種 7月中旬